

遺跡から発掘される遺物（生活などに使っていたモノ）には、土器、鉄器、石器、玉類、青銅器、木器、骨角器等があります。多くのものは、破損したりくちはてたりしてしまって、一部しか残っていないものがほとんどです。その中で、土器は、ひか滅的残りがよく、現代のわたしたちに当時の様子を伝えてくれる貴重な遺物といえます。



わたしたちは、土器を復元することで、その当時の人々がどのような暮らしをしていたのか、どのようなムラの人達と交流をしていたのか等、たくさんの情報を知ることができます。



弥生時代に使われていた土器の種類は、次のうちどれでしょう？

①はにわ ②つぼ ③かめ ④たかつき ⑤きだい ⑥はち ⇒ ()

土器を復元していく整理作業は、主に次のような流れで行われます。



では、今回は、その中から「土器片の分類・整理」作業と「接合」作業の体験をしてみましょう。

チャレンジしよう

「整理作業」に挑戦しよう！



①色や厚み、さわった感じが似たものをいくつか選ぶ。



②同じ仲間を探し集め、どんな形の土器が見当をつける。

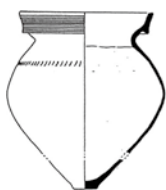


③割れ目が合うところを見つけて、くっつけてみる。(接着ざいかクラフトテープ、もしくは土器パズル利用)



④接合した部品同士をあわせて、もとの土器の形を再現する。(洗たくばさみ等を使い、接着面がくずれないようにする。)

◎弥生土器には、次のような種類があります。復元しようとしている土器が、どんな形の土器が予想してみましよう。



甕 (かめ)



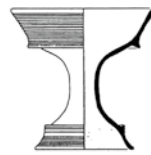
壺 (つぼ)



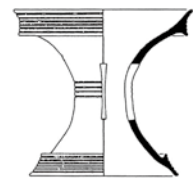
鉢 (はち)



高坏 (たかつき)



器台 (きだい)



豆知識 1

ほんかくてきせいり さぎょう ど き あら ちゅう き
本格的整理作業 1～土器を洗う・注記をする～

発掘してきた土器を接合するまでに行う作業です。作業の手順を追って説明します。



1 ブラシを使って土器片を水洗いします。このとき、表面をゴシゴシとこするのではなく、トントンと軽くたたくようにします。



2 「どの遺跡のどの場所から見つかったか」を土器に書きこむ「注記」作業をします。土器片の裏側のすみっこなるべく目立たないところに、細い筆で白のポスターカラーを使って書き込みます。

ムキバンダ	・遺跡の名前
20MG 438	・「第20次発掘調査(松尾頭地区)で見つかった438番目の土器」の意味
L3 2層	・土器が見つかった場所 (遺跡の中での〇丁目〇番地のようなもの)
070728	・見つかった日の日付 (2007年7月28日)



豆知識 2 本格的整理作業 2～拓本をとる～

拓本は、写真や図面では表現しきれない細かな模様を、墨のこさで、はっきりと表すことができるので、土器の貴重な記録として写真や図面といっしょに残されます。



1 拓本をとるために、土器片より少し大きめの和紙を切り取り、土器片にかぶせます。



2 ぬれたタオルで紙をしめらせ、土器片に密着させます。このあと、少しかんそうさせます。



3 タンポで墨をうち、かわいたら、やぶれないようにていねいにはがし、電話帳等の間にはさんでしわをのばします。

※みなさんは、弥生土器を上手に復元することができましたか？ 今日の「整理作業」体験で発見したことやわかったこと等、感想をまとめてみましょう。

Handwriting practice lines for sharing observations and feelings.